

第25回「配線器具の日」に寄せて

株式会社明工社・明工商事株式会社
株式会社福島明工社

代表取締役社長 川村 龍俊



平成2年にリフォームをして入居したマンション

は、その時点で築14年でした。今年で住み始めて33年になります。専有部分の水道管を取り換えるように忠告を受けたのは20年以上も前のことでしたが、工事を行うには隣の部屋の床や壁、下の階の天井を壊さなければならず、今日に至るまで、

それらの部屋の住人が引っ越して新住人がリフォームをするタイミングをじっと待っていました。

今年になってから下水道管が詰まり気味になったので、ポストに入っていた広告マグネットの水道工事屋さんへ清掃をお願いしたところ、担当者が「プロフェッショナルだ」と書いてきたかといま

配線器具の惨状にア然

2年前、やっと条件が整ったので、業者に見積りをお願いしたところ、想像を絶する金額を提示された。これを断ってきた洗面台や便器やシンク、果ては壁紙まで新品に交換しなければそのままでは使えないといわれて、落ち込んでしまいました。これはもう、彼にお願いの話が返ってきました。あ、埃ってこんなにくいのかと、驚くというよりは悲しくなりました。10月2日に工事を開始。配線器具の日を機会に、それからは毎日職人がやせひ、みなさんも点検を。